

まち

自然にやさしく・人にやすらぎの田舎

みんなで歩むブナ北限の里づくり

第3次黒松内町総合計画【ダイジェスト版】



北海道 黒松内町



この計画は、
本町の現状と時代の潮流を的確にとらえながら、
10年後の将来が、
素朴だけれど住み続けたい、訪れたい
魅力ある田舎になるため、
地域資源を活用しながら、
みんなで歩む道すじを明らかにしています。

計画の構成

基本構想

田舎の将来像を明らかにし、その実現に向けて取組む施策を分野別に区分し、方向性を示しています。

戦略プロジェクト

重点的に取組むプロジェクトの内容を具体的に示しています。

基本計画

田舎の将来像を具現するため、分野ごとに進めるべき施策を具体的に示しています。

実施計画

分野ごとに取組む施策の内容と実施時期を具体的に示します。
※具体的な内容は、毎年発行する「施策のあらまし」でお知らせします。



目指す姿

歌オブナ林に代表される優れた自然や農村の持つ潜在的魅力を更に活かし、ブナの北限の地でしかできない田舎づくりが進められ各地から注目されています。

冷涼な気候や広大な土地を活かした特色ある農業が営まれ、市街地は小さいながらもにぎわいのある空間となり、新たな産業や環境共生を重視した企業誘致も進んでいます。

自然、牧歌的景観、食、町民とのふれあいに魅力を感じ、何度も訪れる黒松内ファンが増え、黒松内と都市部に住まいを持つ人、移り住む人が増えています。

子供たちは、優れた自然や施設、人材を活かした体験活動に触れながら、独り立ちできる人材として育ち、大人も生き活きと学習・スポーツ活動に取組み、学んだ成果を地域で発揮しています。

森林療法、温泉での健康づくりなどが定着し、地齢者が増えています。

対話を軸とした保健サービス、家庭医としての医した福祉サービス、田舎全体で子育てを応援する体安心して暮らせます。

自然にやさしく・人にやさしくの田舎 みんなで歩むブナ北限の里づくり

優れた自然が守り活かされ、農業の生業がもたらす牧歌的風景が自然に溶け込んだ景観は、そこにいるだけで心が癒される美しい空間となっています。

おいしい水、生活排水処理、ごみの減量とリサイクルが進み、快適な環境が整い、道路・交通網や情報通信網が徐々に整備され、災害に対する備えも整い、少しずつ便利で安全な田舎になっています。

多くの町民や事業危機感を共有し、互合い、役割分担しながら進められ、また、たな公共の担い手とます。

まち らぎの田舎 ブナ北限の里づくり

平成 22 年度 [2010 年]

平成 31 年度 [2019 年]

地域資源

- 1 潜在的な資源「自然」、「農」、「立地」
- 2 築いてきた資源「景観」、「体験」、「食」、「交流拠点」
- 3 人にやさしい「福祉」
- 4 田舎の活力「産業」
- 5 田舎を支える「人」



町民の期待

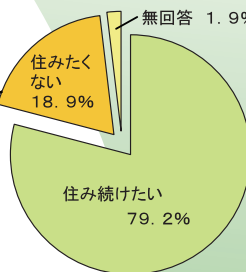
○まちづくりアンケート調査 [平成 20 年 1 月 20 日～2 月 10 日]

まちへの定住志向

・約 8 割の方が今後も黒松内町に「住み続けたい」という回答でした。

「住みたくない」と回答した方々の理由

- 1 位 保健・医療サービス・施設が不十分
- 2 位 日常の買い物が不便
- 3 位 道路事情や交通の便が悪い
- 4 位 町内に適当な職場が少ない
- 5 位 都市部で暮らしたい



まちが行う・サービスの評価

評価が低い		評価が高い
公共交通機関	1 位	水道
雇用・労働者対策	2 位	下水道・浄化槽
医療体制	3 位	文化芸術や文化遺産
工業	4 位	消防・救急
商業	5 位	保健サービス

今後のまちづくりについて

	1 位	2 位	3 位
10～20代	健康・福祉のまち	環境保全のまち	子育て・教育のまち
30代	健康・福祉のまち	子育て・教育のまち	環境保全のまち
40代	健康・福祉のまち	環境保全のまち	子育て・教育のまち
50代	健康・福祉のまち	農業のまち	環境保全のまち
60代	健康・福祉のまち	住民参画・協働のまち	環境保全のまち
70歳以上	健康・福祉のまち	農業のまち	移住のまち

黒松内に愛着を感じている 83.6%

時代の潮流

- 1 本格化する地方分権、求められる自律したまちづくり
- 2 急速に進む少子高齢化、到来した人口減少時代
- 3 持続可能な社会形成と美しい景観づくり
- 4 高まる安全・安心への期待
- 5 急務となる子供たちを取巻く課題の解消
- 6 更に進む情報化・グローバル化
- 7 厳しさを増す地方の産業・経済

まち 田舎の課題

- 1 農業と自然を「守り、育て、つなげる」黒松内型の地域（経済基盤）づくり
- 2 明日を担う子供たちの育成と特色ある学習機会の充実
- 3 生き生きとした暮らしの提案と安心できる保健・医療・福祉体制づくり
- 4 自然と共生した美しい生活環境と基盤づくり
- 5 支え合う自律した協働のまちづくり

域で活躍する高

療、地域に密着
制などにより、

者が、町と夢や
いに手を取り
まち
から田舎づくり
NPO などが新
して活躍してい

自然にやさしく・人にやすらぎの^{まち}田舎

みんなで歩むブナ北限の里づくり



豊かで優れた自然

優れた自然文化遺産の保存

公共交通の確保

緊急時の備え

にぎわいのある商店街

安全・安心な生活

効率的で効果的な開かれた行政

だれもが生き生き学ぶ教育

74北限の星
くろまつない

今後10年間に取組む戦略的・重点的

移住

ブナ里生き生き移住プロジェクト

平成17年度からスタートした本町の移住促進事業は、これまで14家族32名の移住実績があり、その成果は単なる人口減少抑制にとどまることなく、彼らのスキルや生業は本町を更に魅力あるものに変え、本町を訪れる方々はもちろん地元町民にも楽しみを与えてくれます。

今後10年間も、様々な移住施策に取組み、これまで以上に多様な移住者を多彩に誘致します。

ブナ里交流町内ネットワーク（民間移住者支援組織）

現在



ブナ北限の里総合移住対策事業による移住者は、現在までに14家族、32名です。

■先輩移住者

- 1 移住者から見た黒松内町の特徴を伝える
- 2 同じ移住者同士の相談役

■活動

- 1 コミュニケーションを深める交流
- 2 情報提供、相談対応、受入時支援

■一般町民

- 1 黒松内の伝統や風習、暮らしの知恵を伝える
- 2 新たな町民として温かく迎え入れる



ブナ里二地域交流居住システム構築可能性調査研究会

移住希望者



■完全移住、二地域居住の実現の可能性を検討・研究。

■活動

- 1 超高質型住宅による、二地域居住・長期移住体験ハウス等運営
- 2 二地域居住等推進の不動産有効活用・整備調査研究
- 3 移住促進支援制度検討
- 4 移住ビジネス研究・創出



商工会



第3セクター



建築業者



ブナ里交流町内ネットワーク会員



町情報アップ

「黒松内町移住相談窓口」（町担当課）

■インターネットでの情報発信

■雑誌・プロモーション等での情報発信

■移住者相談・回答

■町自らの施策

- 1 分譲地整備
- 2 移住体験ハウス運営
- 3 移住支援制度
- 4 全国組織等との連携
- 5 農業・商工業・観光施策との連携



10年後の姿



移住者は、50家族、100名になり、自家住宅の新築は15戸、新たな分譲地が整備されています。

交流

ブナ里田舎でのんびりプロジェクト

「ブナ北限の里づくり」に取組んで20年。黒松内に訪れ、黒松内を楽しみ、黒松内を味わい、黒松内のファンになる年間約15万人の方が黒松内に目的を持って訪れています。

今後10年間も、様々な交流施策に取組み、これまで以上に長期間滞在する黒松内ファンを増やします。

ブナ北限の里づくり

現在

黒松内に訪れる方々は、年間147,954人（平成20年度）です。
日帰り＝135,753人
宿泊＝12,201人



団体・事業者

■歩く楽しさをより充実

- 1 地域資源を有機的に結びつけるフットパスの整備と充実
- 2 ベンチや木陰などの素朴な整備



農業者・移住者

■農村での体験を充実

- 1 民泊・体験農園の検討と実践
- 2 牛舎・畑周りの環境整備
- 3 朝採り野菜などの産直販売

黒松内に訪れた方々



■くつろぎの時間が充実

- 1 黒松内型スローフード
- 2 農業者・事業者連携イベント
- 3 地元産品の加工品
- 4 市街地の滞留利用拠点
- 5 ふれあいの森情報館の利活用

■森での時間が充実

- 1 ブナ林ガイド
- 2 森林・温泉で癒しの時間

町

■新たな交流観光の創出

- 1 グリーンツーリズムビジョンの策定
- 2 ビューポイント等の簡易な整備
- 3 交流施設の魅力向上
- 4 自然、農村景観に溶け込んだ景観づくり

■情報発信を充実

- 1 町HPの情報充実
- 2 観光パンフレット作成
- 3 新幹線・高速道路を活用した新たな交流事業の創出

■観光産業への支援

- 1 ファームイン・産直販売への支援
- 2 フットパス整備等への支援
- 3 第3セクター・NPOへの支援



第3セクター・事業者

■お客様を迎える心構えを大切にする

- 1 ブナの里振興公社等の観光産業従事者の育成
- 2 三種の神器、店のディスプレイやしつらいの工夫
- 3 インフォメーション機能の強化



10年後の姿

交流人口は16万人となり、少人数で長時間にわたり滞在する方々が増えています。

■目標数値【平成31年度】

滞在型観光客 20,000人

交流人口 160,000人

日帰り＝140,000人

宿泊＝20,000人



新たな田舎づくりのステージへ踏み出すため、「限られた人材・財源を有効活用する」視点と「選択と集中」の視点に立ち、今後10年間で戦略的・重点的に取り組む「八つのプロジェクト」を掲げています。

農業

ブナ里農業チェンジプロジェクト

農業施策は、農畜産物の安定生産、経営規模拡大を目指した取り組みを行ってきました。

今後10年間は、これまで以上に農業と農村の良さを町内外に伝え、新規就農による移住者の増加により地域を活性化など新しい視点を持った農業施策に組み、本町の基幹産業である農業を振興します。

農村としてのブナ北限の里

現在



本町には、農家が78戸あります。
特色あるふれあいファーム3戸、地場野菜販売農家15戸等の取り組みもあります。

事業者・町

■農業・農村を活かした実践への支援

- 1 ファームイン、農業体験、産直販売、食品加工品の製造など多角経営に対する支援
- 2 小規模農業を希望する新規就農者への制度充実
- 3 子ども農山漁村交流プロジェクトの受入体制の検討・実施への支援
- 4 農村民泊施設の整備検討
- 5 クリーン農業推進専用ほ場開設の検討



■コスト低減に向けた支援

- 1 堆肥センター改修による堆肥製造コストの低減化
- 2 生産コスト低減につながる農業機械購入や施設整備に対する支援
- 3 産み分け用選別精液による効率的な雌牛確保への支援

■取り組み拡大に対する支援

- 1 既存の酪農ヘルパーを農作業全体の労働支援を行う組織へ拡大
- 2 町自らの営農指導員配置による経営・技術面指導の充実
- 3 町独自の取組による遊休農地等の優良農地化対策
- 4 学校給食における地場野菜の使用量拡大

潜在資源

ターゲット

交流人口148千人
子ども農山漁村交流の推進
小規模営農を希望する移住者

地域資源

有機物資源【堆肥センター】
学校給食センター、福祉施設
産地としてのブランド力

経営
技術
情報
人材
育成
支援

農業者

■農業・農村を活かしたチェンジ

- 1 ファームイン、体験農園、産直販売、食品加工品の製造などの検討と実践
- 2 子供・学生等のファームステイ受入
- 3 学校給食への地場野菜安定供給



■コスト低減に向けたチェンジ

- 1 化学肥料・農薬等に頼らない農作物生産
- 2 集落営農組織化などの検討と実行
- 3 産み分け用選別精液による効率的な雌牛確保



■取り組み拡大によるチェンジ

- 1 農業サポート組合（仮称）の設立
- 2 クリーン農業への挑戦

10年後の姿

農家経営が安定して、後継者が育つ農家が多くなっています。
農畜産物の安定生産はもとより、農業体験の受入れなどのグリーンツーリズムが着地型観光の一翼を担っています。
また、野菜等の地産地消や食育活動の普及に加えて、加工品製造等の付加価値型生産活動に取り組む農家が増えています。



里山

里山ブナ林再生プロジェクト

北限のブナの田舎としてブナ林を守り続けるとともに、歌オブナ林を町のシンボルに、文化の伝承と自然体験型の交流事業に取り組んできました。

今後10年間は、ブナを保護するだけでなく、里山をテーマにブナを活かした様々な取組を展開し、本当の意味でブナに囲まれた風景・生業・暮らし・食等を創造します。

「母なる森」の「森の母」たちブナとのかかわり

現在

ブナウォッチングツアーをはじめ、都市部からブナ林を訪れる交流が続いています。
また、町に加えて町民有志と事業者からなる実行委員会によりブナが植樹されています。



町民・団体・事業者

■ブナ林の生産

- 1 ブナ苗畑による苗木づくり
- 2 伐採跡地へのブナ等広葉樹の植栽
- 3 家庭でのブナの植栽

■ブナ北限域での活動

- 1 黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会活動の充実
- 2 ブナ林を活用した体験・学習メニューの充実



■ブナ材での木工製品づくり

- 1 ブナ製材の生産
- 2 ブナ材を中心とした木工製品の開発

■ブナを活用した食づくり

- 1 ブナ・ドングリの実を食べた豚の飼育・肉加工品の開発
- 2 ブナの実を使った和洋菓子の商品化
- 3 ブナ材チップを使った燻煙食肉製品の商品化

ブナのある里山

保護するブナ
つくるブナ
風景のブナ
使うブナ
食べるブナ
つながるブナ



支援・誘導・連携

■ブナに囲まれた風景づくり

- 1 容易にブナの苗木を購入できる環境の整備及び無償配布
- 2 写真・絵コンテストの開催

■ブナを食する製品づくり

- 1 ブナ・ドングリを食べた豚の飼育・肉加工品の開発支援
- 2 ブナの実を使った和洋菓子の商品化への支援
- 3 ブナ材チップを使った燻煙食肉製品の商品化支援



町

■ブナ植樹による里山づくり

- 1 風景・学び・循環の里山、時間と交流の里山づくりを展開する里山づくり実行委員会（仮称）の設置
- 2 ブナ苗畑の整備
- 3 ブナ自生林マップの作成
- 4 民有林伐採跡地へのブナ等広葉樹植栽

■優良ブナ林の保全

- 1 北限のブナ林の保全
- 2 ブナが生育する優良民有林の取得

■ブナ北限域での活動強化

- 1 ブナにまつわる歴史やブナ北限域の情報発信機能の強化・充実
- 2 黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会との連携・支援
- 3 近隣町村が実施するブナ植樹活動との連携強化

■町内木工クラフト家との連携

- 1 ブナ製材を生産する循環の里山の検討と整備
- 2 クラフト家のブナ材活用に対する支援
- 3 赤ちゃんへブナ材おもちゃのプレゼント
- 4 小学1年生の学校机の天板をブナ材化



10年後の姿

里山づくり実行委員会（仮称）等によるブナの植樹や保護で、新たに5haのブナ林が増えています。
ブナを活かした取組みが活発になり、木工家などブナを原料や素材にした収入で暮らす人が増えています。
暮らしの中でブナと触れる機会が増え、町民にブナがこれまで以上に身近に感じられる存在になっています。



産業

ブナ里新産業創出プロジェクト

人々が安心して生活し、地域が元気であるためには就労の場の確保、安定した収入の確保が不可欠です。今後10年間は、黒松内の素材を活かした商品開発、黒松内の豊かな自然を活用した経済活動、黒松内のゆったりとした空間での在宅ワークなど、小規模、個人単位の取組みを基盤に企業レベルでの新たな産業にも結び付くよう取組みます。

就業の場としてのブナ北限の里

現在

企業誘致2社、小規模食品加工業8件はあるものの、官公庁の縮小・撤退、農業の不振、商店数の減、企業数の減が続いています。

雇用の場不足

人口減少

町

■立地を活かした企業誘致活動



■自然を活かした企業誘致活動



■起業基盤の整備

- 1 テレワークに対応できる情報基盤の整備

潜在資源

ターゲット
交流人口 148千人
移住者 増加傾向
高齢化率 32.6%
地域資源
ブナ林を代表とした自然
道央・道南の中間点の地理
冷涼な気候
福祉施設の充実

農業者・移住者

■都市と農村の交流から生まれるビジネスの創造

- 1 地元町民とのふれあいによる民泊の受入れ
- 2 田植え・稲刈りなどの農業体験の受入れ
- 3 そば打ち、豆腐づくりなどの加工体験
- 4 朝採り野菜などの産直販売と付加価値のある加工品の販売



■立地を活かした起業

- 1 道央・道南の中間点としての物流拠点
- 2 豊かな自然に囲まれた環境で在宅ワーク



商業者・事業者

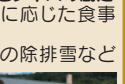
■魅力ある商店街の創造

- 1 誰もが見て歩き楽しめるお店づくり
- 2 にぎわい創出イベントの開催



■高齢者等をターゲットにしたビジネスの創造

- 1 高齢者の嗜好、健康状態に応じた食事などの宅配
- 2 夏期間の草刈りや冬期間の除排雪など生活に密着したサービス



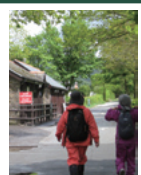
■二地域居住者をターゲットにしたビジネスの創造

- 1 二地域居住専用住宅の整備と維持管理
- 2 遊休農地を有効活用したホビー農業・家庭菜園場の管理



10年後の姿

黒松内オリジナルの食が提供され、商品が販売されているほか、フットパス沿線にあるファームイン農家や個人事業者には多くの方が訪れています。
また、ブナの森の遺伝子を活用した薬効企業などが進出しているほか、個人や企業が豊かな自然環境の中で場所を問わず在宅で勤務しています。



ブナ里美しい田舎づくりプロジェクト

歌オブナ林に代表される優れた自然環境との共生による持続可能で美しい田舎づくりが、将来の大きな財産になると信じています。

今後10年間は、この自然環境と美しい農村景観を次の世代へ引き継ぐため、環境負荷の少ない産業活動・ライフスタイルの定着の促進と景観に配慮した田舎づくりを推進します。

優れた自然が残る美しい田舎

現在

北限のブナ林を中心とした自然環境との共生による持続可能な田舎づくりを実践し20年。

自然環境が豊かで色彩が統一された建物が並び美しい田舎として、町内外から評価されるようになってきました。



団体・事業者

■環境に配慮した事業活動

- 1 環境にやさしい事業活動の検討と実践
- 2 有機物資源を活用した土づくりによるクリーン農業への取組み

■緑を増やす活動の充実

- 1 植林など緑を増やす活動の積極的な参加と実施



■田舎の風景に配慮した景観づくり

- 1 看板や工場など農村景観に配慮した色彩・形態の採用
- 2 花や緑の植栽活動の取組み

町民

■エコライフの普及・定着

- 1 環境学習会等への積極参加
- 2 生態系や森林の保全・活用への積極的な参加
- 3 環境にやさしいライフスタイルの実践・定着
- 4 3R運動の実践



■田舎の風景に配慮した景観づくり

- 1 住宅など農村景観に配慮した色彩・形態の採用
- 2 花や緑の植栽活動の取組み

自然豊かで見たいものしかない美しい田舎

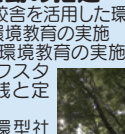


連啓支誘規監
携発援導制視

町

■環境教育・エコ活動の推進

- 1 ブナ林やエコ改修した校舎を活用した環境教育、地球規模での環境教育の実施
- 2 子供エコクラブによる環境教育の実施
- 3 環境にやさしいライフスタイル・事業活動の実践と定着の促進
- 4 ごみ減量化などの循環型社会を目指した3R運動の促進



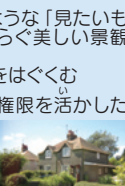
■野生動物と共生する環境づくり

- 1 全町的な環境管理のあり方の検討
- 2 朱太川流域の水質やブナ林等の環境監視活動の継続
- 3 クリーンマナーの普及啓発
- 4 地球環境に好影響を与える森林の維持と育成
- 5 守る森と活用する森の明確化と計画的な活用
- 6 植樹活動等への支援及び誘致
- 7 バイオマス活用とクリーンエネルギー導入

■企業誘致と問題廃棄物の移動の監視

■要協しない景観づくり

- 1 ヨーロッパの田舎のような「見たいものしかない」心やすらぎ美しい景観づくりの推進
- 2 スローな視点で景観をはぐくむ
- 3 景観行政団体である権限を活かした黒松内ルールによる景観規制
- 4 花や緑の植栽活動への誘導と支援



10年後の姿

北限のブナ林を中心とした豊かな森、鮎が棲み鮎が遡上する朱太川、その周辺で営まれる農畜産業の生業による牧歌的風景は今と変わりなく保全され、廃屋を撤去し、色彩が統一している落ち着いた町並みは、黒松内で生活するすべての人々の財産として引き継がれています。



ブナ里ハッピーライフプロジェクト

食生活などの変化による生活習慣病の低年齢化が問題視されるとともに、目標年次【平成 31 年】には、町民の 10 人に 4 人までが高齢者になると予測され、医療や介護を必要とする人がこれまで以上に増加することが懸念されます。

今後 10 年間は、だれもが生涯にわたり健康で幸せに暮らせるよう、地域資源を活用したスポーツや学習活動、ボランティア・仕事などを通じた健康づくりに取り組むことに加え、各種検診を充実させ、地域全体が一人ひとりの健康を支える環境をつくりまします。

だれもが元気な田舎

現在

過疎化と核家族化などにより、地域活動の原動力となる人材が不足していることから、元気な高齢者が地域の担い手として活躍することが必要不可欠です。

いつまでも元気に地域で活躍するためには、日々の健康管理が大切ですが、各種検診受診率は低い状態です。



【平成 20 年度】
特定健診受診率 26%
がん検診受診率 23%

町民

■自主的な活動

- 1 身近な運動の実践と温泉を活用した保養
- 2 喫煙、飲酒、食生活など生活習慣の見直し
- 3 趣味や生きがいを見つけ充実した生活を送る
- 4 ボランティアへの積極的な参加



■他人と触れ合う機会への参加

- 1 スポーツ教室、学習活動への参加
- 2 町内会での話し合いや行事への参加
- 3 年代を越えた世代との交流機会への参加

■定期的な身体状況把握

- 1 健康相談・講座などへの参加
- 2 体力測定などの身体機能の把握
- 3 がん検診など各種検診の受診

参加

支援

啓発

参加

10 年後の姿

「自分の健康は自分で守る」意識が高まることに加え、知らず知らずのうちに健康な体が形成され、お年寄りが知恵を伝承し若者や成年層と田舎を守り育てる元気な姿を至る所で目にすることができます。



団体・事業者

■高齢者の経験、知恵、技術を活用した農村ビジネスの展開

- 1 移住者、二地域居住者をターゲットにした各種サービスの提供
- 2 代々農村に伝わる食文化の商品化
- 3 ボランティア貯金制度の創設

■各種団体等の活動充実

- 1 各種サークルの運営充実
- 2 指導者の育成と確保
- 3 地域の施設や資源を活用した各種イベントの開催
- 4 食をテーマとした講座の開催

■支援が必要な町民への十分な対応

- 1 在宅ケア体制の充実とマンパワーの確保
- 2 保健、医療、福祉の連携による地域生活支援体制強化
- 3 冬期間の除排雪や病院までの移送など生活に密着したサービスの提供
- 4 地域での見守り体制の充実
- 5 消費者被害などに対する防止策の啓発強化



連携

支援

誘導

町

■元気な心づくり

- 1 対話を軸とした地域保健活動の推進

■定期的な健康管理

- 1 定期健康診断、がん検診などの受診啓発と費用の支援
- 2 計画的な健康増進活動の推進

■自分の家での暮らしを支援

- 1 ケア付き住宅等の整備（まちなか居住の推進）
- 2 相談支援体制の充実と地域活動支援センターの整備

■社会参加体制づくり

- 1 コミュニティビジネスへの支援
- 2 ボランティアなど地域づくり活動への参加支援

■元気な体づくり

- 1 地域資源を活用した身近な運動・スポーツへの総合的な支援
- 2 年齢、興味、技術に応じて参加できる多様なスポーツの提供
- 3 計画的な食育の推進
- 4 町民体育館等の体育施設の充実

ブナっ子の輝く笑顔プロジェクト

子供たちが元気な声を響かせ、あちこちで走り回る姿がどのくらいあるかが田舎の元気のバロメーターです。

今後 10 年間は、家庭はもとより、町民、コミュニティ・団体・事業者、町の役割分担と連携により地域全体が心豊かでたくましい子供を育てる出産しやすい環境をつくり、子供たちが生まれ育った黒松内を誇りに思う心を育てます。

未来の子供を立派に輝かせる田舎

現在

医療面や保育面など多面的な角度からの子供の成長支援は一定のレベルにあるものの、住環境や子供の将来が決定する教育面では、情報や経済面での格差が広がっています。



【平成 20 年度】
子供の出生数 24 人
子供の人口割合 11.8%

子供

「確かな学力」
「豊かな心」
「丈夫な体」



子育て家庭

■子供の夢や個性を育てる

- 1 日々のたゆまぬ努力が自分の輝く将来を築くことを考えさせる
- 2 愛情を持った正しいつけを持つ体験
- 3 夢や希望を持つ体験機会の充実
- 4 家族の会話や触れ合いを増やし思いやりの心を身に付けさせる
- 5 規則正しい食生活を実践し身に付けさせる

支援

学校

■「確かな学力、豊かな心、丈夫な体」を育てる

- 1 子供の進路に合った情報の提供・指導
- 2 習熟度別指導、発展的・補完的学習
- 3 外国人講師による国際理解教育・外国語指導
- 4 豊かな自然や各種施設を活用した体験中心の「特色ある教育」
- 5 地域の人材・資源の活用による道徳・心の教育、福祉教育等の充実
- 6 給食を通じた規則正しい食生活、地産地消などの食育
- 7 特別支援を要する児童・生徒への支援

連携

支援

コミュニティ・団体・事業者

■子供の安全確保

- 1 登下校時における子供の見守り強化

■子育てへの理解

- 1 職場での子育てしやすい環境づくり

■子育てサークルの充実

- 2 子育てサークルの充実

■子供との関係を深める

- 1 職場見学や体験などの受入れ
- 2 子供が参加しやすい行事等の開催

■山村留学の取組み

- 1 山村留学制度・通学合宿制度への支援・定着

連携・支援・誘導

10 年後の姿

子供を安心して一人前にできる環境が整い、人口に占める子供の比率が減らずに、子供たちは黒松内での体験によりたくましい体と豊かな心で外のまちへ一層勉学を充実させるため旅立ち、全国・全道で活躍し外から黒松内を応援する者、地元黒松内に汗を流す者に成長しています。



基礎学力の向上

- 1 放課後や夏冬休みを利用した学習の場の提供

■安全・安心な教育環境の整備

- 1 エコ改修による学校施設の改修

■地域での子育て支援活動の促進

- 1 子育てサークルへの支援
- 2 子育てネットワークの充実と子育て相談機能の強化

町

■子育てサービスの充実

- 1 延長保育などニーズに応じた保育体制の強化
- 2 放課後保育などによる子供の居場所の確保
- 3 母と子供に対する保健活動の強化

■子育て世代の経済負担の軽減

- 1 医療費・保育料など経済支援
- 2 義務教育後の授業料、通学費、寄宿費に対する支援

■住宅の安定供給

- 1 安心して子育てできる環境の整った良質な住宅の確保

分野別計画の方向

まち
田舎づくりの五つの課題に沿い、
分野別に 26 項目に分けて、
今後取り組むべき具体的な施策をまとめました。

人材

まち 田舎を育む人づくり 【学校教育、社会教育、地域文化】

- 子供の夢をかなえるための「基礎学力向上」に力を注ぎます。
- 自然や農業などを活かした「特色ある教育」、「特色ある学校づくり」に引続き取り組むとともに、地域とのつながりを深めます。
- 地域が持つ課題に対応する学びの場を創出しながら、地域リーダーを育成します。
- すべての町民が心身ともに健やかであるよう、ライフステージに合わせた学習・スポーツ活動を充実・定着します。
- 歌オブナ林をはじめとする自然遺産は、大切に守り活かしながら、調査研究の継続、情報発信の強化、新たな活用にチャレンジします。
- ブナがつなげる姉妹市「愛媛県西予市」との交流を継続します。

振興

自然を活かす 【農林水産業、商工業、

- 自然と並ぶ潜在的な資源「農業」る生産物の確立はもとより、付加化）を目指すとともに、クリーン
- 自然の源となる森林は、守る森を誘導することに加え、種苗や木み、森と関連の深い水産資源の確
- 市街地のにぎわいづくりや地域資
- 優れた自然や牧歌的景観、農業体農村の魅力を活かした体験・滞在
- 交流の延長線上にある二地域居住策を展開します。
- 良質住宅のストック、黒松内型の

自然にやさしく・人
みんなで歩む

安心

まち 人にやさしい田舎づくり 【保健、医療、地域福祉、子育て、高齢者、障がい者、消費者対策】

- すべての町民が健やかで安心して生活できるよう、健診・予防対策と同時に自主的な健康づくりを促進します。
- 1次医療と救急医療を確保します。
- 町民が支えあい助け合う地域福祉環境を維持・強化し、まち田舎全体での子育て応援、高齢者や障がい者の積極的な社会参加を促進します。
- 生活でのトラブルの回避と解決に向け、消費生活に関する情報提供、啓発、相談体制を充実します。

経営

自律し 【行財政、広

- 財政基盤の一層の強職員の資質向上なぐりを推進します。
- 地方分権による事務け皿とした広域での礎自治体が真に取組確立します。
- 速やかで分かりやす広報・広聴機能を充
- 新たな田舎づくりの団体・事業者、町のたな公共を担う人材、

まち 田舎づくり 観光、移住・定住】

を守り、育み、活用するため、主た
価値の高い生産物の定着（ブランド
農業に挑戦します。

活用する森とを明確にし、適正な施業
材としてのブナの新たな利活用に取り組
保にも努めます。

源を活かした企業誘致に取り組めます。
験、フットパス、特産品などの農業・
型の交流に取り組めます。

や完全移住に向けた総合的な移住対

まちなか居住に取り組めます。

にやすらぎのまち 田舎 ナ北限の里づくり

まち た田舎づくり 域行政、広報・広聴、協働】

化、簡素で効率的な行政運営、
ど、「選択と集中」によるまちづ

の移譲など、後志広域連合を受
事務処理を進めると同時に、基
むべき課題に対応できる体制を

い情報提供と意見の反映のため、
実します。

仕組みとして、町民、コミュニティ
協働体制を確立するとともに、新
NPO等の育成に努めます。

分野別の26項目には、
それぞれに「10年後の目指す姿」を掲げ、
現在の「町民満足度」を示し、
目指す姿を実現するために取組む「主な施策」、
取組みの目標と成果を示す70の「成果指標」、
町民、コミュニティ・団体・事業者、町が
それぞれ担う役割を示す「協働の指針」を
表しています。

生活

自然にやさしい環境づくり

【環境管理、景観、上下水道、環境衛生、
道路・河川、公共交通、情報通信網、
消防・救急・防災】

- 先人たちが守ってきた「北限のブナ林」をはじめとする
優れた自然を次世代に引き継ぐため、守り、育て、活か
す総合的な環境施策を推進します。
- 「景観行政団体」の利点を活かし、自然と農業の生業がも
たらす牧歌的風景など心やすらぐ美しい景観をつくります。
- 安全で安心な水の安定供給や生活排水処理を推進します。
- 3R運動の促進や効率的で環境にやさしい廃棄物処理体
制の確立に努めます。
- 既存道路の充実、北海道横断自動車道の整備促進、日常
生活の身近な足としての公共通路線を維持・確保します。
- 高速・大容量の情報通信機能を整備・拡充します。
- 緊急時に備え、消防・救急体制、防災体制をより充実し
ます。

すべての分野にわたって 共通する四つの「約束ごと」

「町民の参画と協働」
「地域資源を活用」
「環境・景観に配慮」
「効率化」



自然にやさしく・人にやすらぎの^{まち}田舎

みんなで歩むブナ北限の里づくり

第3次黒松内町総合計画
【ダイジェスト版】



黒松内町長

若見雅明

ブナ北限の地に戸長役場が置かれた約130年前、先人は、明日を夢見て、草木生い茂る土地に^{くわ}鋤を下ろし、幾多の困難にもめげず、北限のブナの森を掛替^かえのない財産として守り続けました。

北限のブナは、植物、動物、そして人を^{まち}ゆつくりと育て、人々の思い、歴史、美しい田舎を形づくり、素朴な豊かさや心の豊かさとして、今に生きる私たちに多くの恵みを与えています。

社会がめまぐるしく変化する21世紀、日々の暮らしの中で知らず知らずのうちに「環境」を意識する時代となりました。

先人が伝えた「母なる森」がはぐくんだ豊かな恵みを、次代の子供たちへ引き継ぐことが、今を生きる私たちに課せられた大切な使命にほかなりません。

そのためには、時代の行く先を見据えたうえで、守るものはしっかりと守り、必要なものは^と時間をかけて変えることをいとわず、何ごとにも果敢に挑戦することが大切です。

黒松内に思いを寄せ暮らす人々がささやかながらも幸せを感じられるよう、みんなで手を取り合って歩むまちづくりの実現に思いを込めて、このプランをお届けします。

平成22年3月

編集・発行 黒松内町企画調整課

〒048-0192

北海道寿都郡黒松内町字黒松内 302 番地 1

TEL 0136-72-3311 FAX 0136-72-3316

URL : <http://www.kuromatsunai.com>

E-mail : kikaku@town.kuromatsunai.hokkaido.jp

R100

当館配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INKTM